

先週の説教要旨

『ぶどう酒に変わった水』井上隆晶牧師
列王記下 2:19~22、ヨハネ 2:1~12

①【神の時を静かに待つ】カナで婚礼があり、イエス様たちは宴会に招かれました。その婚宴の最中にぶどう酒がなくなりてしまいました。母マリアはイエス様に「ぶどう酒がなくなりました」と相談します。イエス様は「婦人よ、わたしとどんな関わりがあるのですか。わたしの時はまだ来ていません」(4節)と言われます。「婦人よ」というのは当時の言い方で「お母様」というような意味です。

「私とどんな関わりがあるのですか」は「あなたはどうお考えであれ、私には私の考えがあります」という意味です。「わたしの時はまだ来ていません」とはどういう意味でしょう。神がその栄光の姿や力を現される時だと理解していただければよいと思います。私たちはすぐに必要が満たされることを願いますが、神には神の定めた時というものがあつて、私たちはその時を待たなければなりません。母マリアは神の時を待つことができる人でした。彼女は召し使いたちを呼んで「この人が何か言いついたら、そのとおりにしてください」(5節)と言い、ぶどう酒を買いに行かせることもせず、宴会の世話役に相談することもせず、この問題をイエス様にお委ねして待ちました。

②【人間の労働と神の働きで万物は完成する】宴会場にはユダヤ人が清めに用いる石の水甕が六つありました。一つの水甕は800~1200㍑入るものでした。イエス様は召し使いたちに「水がめに水をいっぱい入れなさい。」というと、彼らは甕の縁まで水を満たしました。水道からではなく井戸から汲むのですから何度も往復をしなければなりません。大変な

重労働です。なぜイエス様は召し使いたちにこんな行動を命じられたのでしょうか。デミトリー神父は「世界はたんに神からの贈り物ではなく、人に課せられた仕事である。」といっています。六つの水甕は、六日間で造られた世界を象徴しています。それに人間が手を加え、造り替えることで、この世を完成させるようにされたのです。それは人間も同じなのです。人間は神の像(かたち)を持つ者として創造されました。それは最初から完全であったという意味ではなく、完全に向かって成長するようにプログラムされていました。神(キリスト)の似姿にまで成長してはじめて完成されるのです。だからエデンの園には最初から労働が与えられていたのです。「神は人を連れてきて、エデンの園に住まわせ、人がそこを耕し、守るようにされた。」(創世記2:15)私たちは死ぬまで自分自身に対して手を加えなければならないのです。そのために人生の労働と修道生活があるのです。神が創られた人間に、人の労働が加わり、更にそれを神が祝福して神の似姿に変容するのです。特に信仰生活においては、同じ時間に、同じ動作、同じ祈りを繰り返すことは非常に効果があります。

19世紀のクロンシュタットのイオアン神父は「司祭には、主の祈りをはじめ、祈りの反復が責務です。なぜなら、魂の強化は多様性に富む祈りよりも、同じ祈りを反復することによって…定着させることができます。」と言っています。祈り続けること、伝道し続けること、説教し、語り続けることは、水を汲むようなことです。時に、無駄ではないかと思うこともありますけれども、続けることが大事なのです。↑

週報

日本キリスト教団

都島教会

伝道所設立 1957年12月1日 教会設立 2001年12月2日

〒534-0012 大阪市都島区御幸町2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

Eメールアドレス : 3533osgm@jcom.zaq.ne.jp

ホームページアドレス : <https://miyakojima-church1.com>

郵便振替 00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上 隆晶

2026年2月1日 No.1857



《悪魔の誘惑》

都島教会の2025年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなし。」(詩編 127:1)

2025年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均28名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 信徒の交わりを大切にします。
- 4 会堂建築のための具体的な準備を進めます。